

福山・笠岡地域公共交通活性化協議会 第9回協議会 会議録（要旨）

1 日 時

2019年（平成31年）3月26日（火）10:00～12:00

2 場 所

福山市役所本庁舎6階 60会議室

3 出席者

(1) 委員（21名）

井上矩之委員，渡邊一成委員，大谷琢磨委員，高橋文子委員，和田秀俊委員，平野勲委員，丹呉允委員（代理 重長誠），山田和孝委員（代理 山香賢治），万代洋士委員（代理 末尾正樹），渡邊寛人委員（代理 毛村正章），田淵博雄委員（代理 小柳康代），神原昌弘委員，吉本伸久委員，久保聡志委員（代理 小林一成），天野雄二郎委員，山田康文委員，岡本哲典委員（代理 畑中稔），上田隆博委員（代理 開原俊雄），佐藤一也委員，植田文一委員，柴崎和義委員（代理 柳沢宏道）

(2) 事務局（6名）

福山市 住吉課長，栞原次長，高村主事
笠岡市 河田課長，高田係長，川崎主事

(3) 傍聴者（2名）

(4) 随行者（0名）

4 会議の成立

委員26名中，代理出席を含め20名出席で，委員の過半数が出席しているため，福山・笠岡地域公共交通活性化協議会規約第7条第2項の規定により会議が成立

5 議事

【協議事項】

(1) 再編実施計画の策定に向けた取組状況

【報告事項】

(1) まわローズの実証実験結果（速報値）

(2) 買い物ライナーの実証実験結果（速報値）

(3) グリーンスローモビリティの導入

(4) 総合時刻表の作成状況

6 資料

- ・次第
- ・出席者名簿
- ・配席図
- ・第9回福山・笠岡地域公共交通活性化協議会 会議資料

- ・第9回福山・笠岡地域公共交通活性化協議会 添付資料
- ・福山・笠岡地域公共交通 総合時刻表

7 協議内容

(1) 会長挨拶

皆様こんにちは。今日は年度末、また、遠くから来て頂いている方もおられると思います。本日もどうぞよろしくお願ひいたします。

(2) 議事

協議事項(1) 再編実施計画の策定に向けた取組状況

事務局：資料により説明。

((株)中国バス、鞆鉄道(株)より、経営環境の現状について追加説明)

副会長：網形成計画の基本方針まで見直す必要はないのでしょうか。もう1点、フィーダーについてはかなりの部分を乗合タクシーにシフトしていくことが、今回の実施計画でも言われているのですが、タクシー協会さんも来られていますので、協会の方で受け入れが持続可能なのかについてコメントをいただければと思います。

事務局：網形成計画における根本の考え方は公共交通の維持・確保です。この考えに基づき、様々な施策、事業を決めております。幹線、支線の考え、また様々なモードでの支線交通等の在り方というのも、この考えを基本としておりますので、基本的な考え方の見直しまでに至る内容ではないと事務局では考えております。

委員：現在、市と一緒に過疎地の実証実験などを実施しておりますが、我々の業界でも、できることをやっけていこうと考えています。利用者が利用しやすい環境をどう作るか、また過疎地においてトントンでも良いから業界ができることをやっけていこうと、全国タクシー協会の中でも話しがでてるところです。赤字が出るようだと言難しいですが、バス業界とどうすればうまく連携できるかなども今後考えていくべきと思っています。

副会長：バス事業者さんの運転手不足が危機的な状況にあつて、高齢化の問題もあるということですが、タクシー協会さんではドライバー不足の状況はいかがでしょうか。

委員：バス業界と同じくドライバー不足であり、平均年齢も60代前半と高齢になっています。関東では30代40代が増えている状況らしいですが、これが地方に下りてくるまでには時間がかかります。そのため、働きやすい環境をどうタクシー業界が作っけていくかを考えているところです。ドライバー不足をフォローするために、協会では、タクシー会社同士の連携についても話し合っているところです。

会長：運転手の不足に対しては、自分の会社だけで充足するのではなく、例えばですが、ピザの配達も昼、新聞は朝など忙しい時間が違うので、新聞の配達員がピザの配達ができるといったイメージで、新しい経営の考え方でバス、タクシーもできれば良いのではないのでしょうか。

委員：計画の変更見直しの期間を少し前倒しするということですが、再編実施計画全体への影響はどうお考えなのでしょう。もう1点、1年後に見直しして、更に2段階、3段階という形で見直しを進めていくのでしょうか。

事務局：事務局としては、前倒しというよりも、今回の再編実施計画の内容以上に見直さざるを得ないと捉えています。再編実施計画へのトータル的な影響は無いと考えていますが、引き続き、バス事業者さん、タクシー事業者さんの考えを充分にお聞きして有効な手段を見つけていきたいと考えているため、可能性としては2段階目、3段階目というのものもあるかもしれないと思っています。

副会長：会議資料の3ページに再編実施計画の期間に図が掲載されており、第2段階の計画変更を2020年10月に実施するということですが、その後も変更の可能性があるなら、2021年、2022年あたりにも、必要に応じて見直す、という文言を入れてはどうでしょうか。また、そういうことを書いても良いのでしょうか。

事務局：我々としては、2回目の縦線で消してあるものは完全に無くすように進めたいですが、可能性としては残る、という程度に捉えています。そのため、確実に次の見直しを行うのではなく、状況に応じて相談させていただきたいと考えています。

会長：運輸局さんどうですか。

委員：計画の全体像はできているけど、見直しのタイミングが少し流動的になる、というイメージで捉えています。例えば、全体像としてゴールは見えているので、目安として期間を明記するのは手だと思いますし、必要に応じた見直しを行うというところで、再編実施計画の変更をかけるというのも1つ手だと思います。全体のネットワークとしてどうなのかを決めた上で、必要な見直し、ということで繋げていければよいと思います。

会長：計画を立て、最後まで変えないでやることはできないでしょう。これほど激動の時代なので、逆に、毎年見直すぐらいにしておいて、今年は見直さなくて良い、というように柔軟に進めないといけな。

事務局：状況把握のためにも時間をいただけるということになりますので、今後柔軟に対応・検討を進めていきたいと思えます。

会長：それでは再編実施計画の見直し時期の変更、そして記載内容の追加などについてこのような方向で良いか、異議なしの方は挙手をお願いします。

<挙手多数>

会長：ありがとうございます。挙手多数で承認いただきました。

報告事項(1) まわローズの実証実験結果（速報値）

事務局：資料により説明。

会長：実証実験の結果では、赤ルートの利用客が青ルートにまわっているということで、利用者はそんなに減らずに、コストが減るわけですね。

事務局：そのように考えています。

会長：福山駅からポートプラザ、ポートプラザから福山駅だとよいですが、途中まで乗る人、これは大変です。行きは良くても帰りは遠くなる訳ですから。

事務局：これまでの58便という運行回数が事業者さんにかかなり重荷だったということです。こうした負担を軽減することで、他の路線の幹線部分の充実を図れる、といった期待を含めて、見直しも仕方が無いものと捉えています。なお、新赤ルートに関して

は、メモリアルパーク、宮の端、深津住宅という今まで路線の無い場所についても利用が見込めると考えており、今後は事業者さんと協議をして模索したいと考えております。

会長：一般的にどんな事業や計画でも全ての人にプラスということはありません。プラスの人もいればマイナスになる人、あちらを立てればこちらが立たずというのが一般的といえます。今回は、多くの人が青ルートに転換しているので評価できるのではないのでしょうか。

報告事項(2) 買い物ライナーの実証実験結果（速報値）

事務局：資料により説明。

会長：網形成計画を作る時に、交通は1日生活圏で考えてほしいとお話しました。勤務先、買物には市境も県境も無いはず。ここに行って買いたい、この病院に行きたいなどの活発な移動について、県境を越えて連携するために市境を越えた新しい系統を作ったわけです。私のお願いとして、成功してほしいと思っています。

事務局：買い物ライナーについては、現在、付近の企業からの問い合わせ等もございまして、企業さんとの連携も検討できると考えています。

委員：買い物ライナーの利用実績をみると1便に1人が乗っている状況です。1人だったらタクシーの方が便利という気もするのですが。会社の立場になると、1日8人で1便1人のバスを運行するのは、続ける価値があるのか疑問に思うところです。

事務局：実験結果の乗車人数はそのとおりですが、企業との連携も視野にあり、また今後の宮の前線などの見直し等にも資する内容と捉えています。さらに、県域を越えた路線ではありますが、網形成計画を県域を越えて策定しているのは日本でも珍しいこともあり、事務局としては大事にしたいと考えています。

会長：車両については、車両の重さが変わると燃料費に影響するため、平均1人、2人なら、バスではなくタクシーの大きさが良いといえます。

報告事項(3) グリーンスローモビリティの導入

事務局：資料により説明。

委員：資料に運行ルートが掲載されているのですが、どれくらいの便数とか、料金など、紹介いただける範囲でおしえてください。

事務局：今回はタクシー事業での運行となるため、料金はタクシーと同様です。便数につきましても、要請に基づいての運行となります。資料のエリアマップは、この範囲で運行されることを示すマップになります。

会長：利用できるのは鞆だけなのですか。

事務局：そうです。このエリアマップで示す範囲での運行ということで考えております。

会長：最初はアサヒさんがやって、後で鞆鉄道さんに代わるのは、どういう理由ですか。

事務局：事業者が代わるわけではなくて、4月からタクシー事業としての導入、夏前からバス事業の導入と考えています。

会長：バス事業としてやるということは、タイヤが決まっているのですか。

事務局：そうです。グリーンスローモビリティは20km未満での走行にはなりますが、小さい

乗り物で、電動ですので登坂能力がかなり高い。輛のような、道が細く坂道が多い地域にマッチしていることが11月に行った実証実験で確認できたため、本格導入を進めたいというものです。また、実証実験のときにアンケート調査を実施しましたが、地域の方々の約7割がこの乗り物を使いたい、今後も入れてほしいといったご感想でした。

会長：バス事業は、今のバス路線と同じですか。それとも少し中に入っていくのですか。

事務局：他に道が無い所があるため、今のバス路線と一部重複する部分はどうしても生じますが、基本、従来のバス路線とは重複せずに運行できると考えています。

会長：今の路線は残したままでしょうか。

事務局：そうです。既存のバス路線は1日6往復であり、これを補完して、より利便性を高めるという考えで導入するものです。

会長：スローモビリティの購入費は会社持ちですか。補助はあるのですか。

事務局：国庫補助金があります。バス事業については市が購入して貸与することを考えております。タクシー事業の方は事業者による購入ですが、今後一層活用が深まれば、当然市としての協力はしたいと考えております。

会長：バス事業では、運転者の確保はできるのでしょうか。

事務局：普通免許の二種で運転でき、大型が不要なので確保しやすいと言えます。

委員：タクシー事業では、例えば観光で何人行くから何台確保してほしい、という予約は可能でしょうか。輛に観光で行かれる方は多く、中には足の不自由な方もおられると思うので、例えば団体ツアーで、5台なら5台確保するという予約を事業としてやっていただけるのでしょうか。

委員：今の所、車両購入は1台ですが、需要によって代替えをしていきたいと思っています。観光コースを組んだのですが、車両が1台なので、観光で使っている間は住民が利用できません。その間に要請があれば、狭い道でなければ普通のタクシーが行くことは可能です。全国で初めての緑ナンバーであり、時間帯によって目的を変えるなど仕組みを考えることで、うまく1台2台で運用できるものと考えています。

報告事項(4) 総合時刻表の作成状況

事務局：資料により説明。

会長：配布先はどうなるのでしょうか。例えば観光客であるとか、市民であるとか。

事務局：公共交通マップと同じように、警察署、観光案内所、市の窓口などで配布する予定です。またインターネットでの公表も考えており、今後の更新につきましては、これに対応したいと考えています。

会長：日常の交通では時刻表は別に要りません。いつもの通勤で、福山駅でどれに乗り換える等は分かっているので。特に困るのは2系統乗り換えるときで、それがわかりやすかったらよいと思います。

委員：目的地を訪ねる時を考えると、案内所の電話番号があればよい。先日も、福山港に行き方がわからず、観光案内所に聞いてみたら丁寧に教えてくれました。バスの路線番号、停留所なども教えてくれるので、どこへ問い合わせをすればよいかを書いてあればよいと思う。

(3) その他

委員：芦田川の土手の路線は、8時9時の時間帯は大渋滞しており、鞆の方でも、沼隈を越えて行くところで大渋滞が続いています。乗用車が数珠繋ぎのような所を、公共交通機関の何台かで行くなどは考えられないでしょうか。乗用車は1人1台なので、大渋滞が起きるのは当然のこと。公共交通機関への利用を少しでも見直していけないかというように思っています。あの時間帯は、沼隈路線、芦田川の路線ともに乗用車ばかりで、バスはほとんど見かけないです。

会長：渋滞の問題ですね。マイカーが多くて渋滞して無駄な時間がかかっている。これに対しては、国と市と県が連携してやっている円滑化総合計画の検討委員会があり、そこで渋滞対策を考えています。

委員：併せて道路整備をがんばっていきたいと思います。

事務局：ソフトバンクとトヨタ自動車が出資したモネ・テクノロジーズ株式会社の協力により、3月25日から5月31日までの間、乗合タクシーの実証実験を実施しております。これは支線交通の新たなモードであり、場所は服部学区で、駅家町内の病院などを目的地として運行を開始しております。実証運行が終了に近づきましたら、皆様方に結果のご報告をしたいと思います。

会長：バス運営ではコスト的に成り立たない所は、そのような新しい仕組みも勇気をもって入れてほしいと思います。国からもどんどん補助金を出してほしいです。今は50年ぶりくらいの大激動の時代です。「交通」とは何か、を一言で言うと人や物の場所の移動のこと。「交」とは交わること。他の人と交わりたい、話したい、参加したい、これが私達のニーズであり、「交」です。しかし「交」だけでは移動できない。バスがないと行けない、道路がないと行けない、これが交通手段であり「通」のことです。「交」の面での大変動とは、高齢化で通勤が減り、またネット通販などで買物移動が減ったこと。「通」の方は、第4次産業革命ともいえるIoTの革命による、新しい技術の可能性のこと。福山、笠岡の人のためになる実証実験などにも取り組んでほしいと思います。それでは、進行を事務局へお返しします。

事務局：会長、大変ありがとうございました。

本日ご審議いただきましたとおり、再編実施計画については、さらなる内容の精査・調整を行ってまいります。今後も、皆様方のお力添えをいただきますよう、どうぞ、よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、第9回福山・笠岡地域公共交通活性化協議会を閉会いたします。ありがとうございました。

以上